

食べられる草花

岡崎市矢作西保育園（愛知県岡崎市）

設定した理由 本園は豊かな自然に囲まれており、様々な野草・虫などの自然に触れることができる。身近な自然が与えてくれる恵みを食べることで子どもたちの好奇心を広げ、自然を大切に思う気持ちを育てたいと思った。

保育士の思い 毎日、当たり前のように見ている自然の風景を子どもたちに、より身近で興味のもてるものとなるようにしたいと考えた。そのためには、子どもたちが自ら探し、調べ、発見する楽しさを感じられるようにしたい。「食べる」ということで草花への好奇心を広げ、様々な草花への関心を持てるようにしたい。

<活動の主な流れ>

食べられる野草を探す

- 子どもたちに「食べられる野草は何かあるか」家庭で聞いてくるように話す。
- 実際に探したり、自分の手で摘む。



発見や驚き

- レンゲって食べられるの？
- タンポポのくきも食べられるよ。
- ドクダミって体の毒を出してくれるんだね。
- ドクダミって葉っぱがハートの形をしていて、裏側が赤色なんだね。
- ユキノシタって何？ トトロのちっちゃい傘みたいな形をしていて、緑色なんだけど、名前にユキ(雪)がついているみたいに、葉っぱの裏側が白色だね。



調理する

- きれいに水で洗う。
 - 卵を割り混ぜる。
 - 天ぷら粉も自分たちでつくろう。
 - いつ、油の中に入れていいのかな？
- 印(目安)は泡の大きさ。

自分が取って来た物食べる喜び

- どの野草がおいしかった？
- ユキノシタって甘いね。
- タンポポは食べているうちに苦くなる。
- 他にも食べられる草花はあるのかな？
- 野菜の食べられない子が、自分で摘んだ花は「おいしい」と食べた。

<子どもの主なやりとりや姿>

「おばあちゃんに聞いたら、タンポポが食べれるって言ってた」「ヨモギが食べられるよ。よもぎをおばあちゃんと一緒に摘んで、おもちの中に入れたよ」「ゆきのはな？ ゆきなんとかってというのが食べられるんだって」「そうだ。ユキノシタだ。僕の家ユキノシタがあって、天ぷらにして食べたことがあるよ。おばあちゃんが家に採りにきていいよって言ってたよ」「ユキノシタって何？」「私、知ってる。食べたことあるもん」「知らない」「ぼくの家にきていいよ。(Rくん)」「見に行きたい」「ユキノシタってゆき(雪)だから、白いのかな？」「えっ、草だから緑色だよ」さっそく図鑑や科学絵本で調べている姿が見られた。

ドクダミを見つける。「どくだみっていうんだね」「ハートの形をしてるね」「本当だ。ハートの形だね」「かわいいね」「葉っぱの反対側(裏)が赤いよ」「反対を見たら、赤いから、すぐどくだみだってわかるね」「ドクダミって毒があるの？」「体の毒を流してくれるの？」「ドクダミってすごいね」「薬みたいだね」「ドクダミ茶を飲んだことがあるよ」「ドクダミは食べられるの？」「きつと食べられるよ」とドクダミをいっぱい摘んでいる。

(R児の家)
「ユキノシタってトトロの傘みたいだね」「本当だ。ちっちゃい傘みたいだね」「じめっとした所にしかないの？」「ユキノシタって白色じゃなくて、緑色なんだね。雪なのよね」「本当だ。裏は白色だね」「やっぱり、白だから、ユキノシタって言うんだね」
Rの祖母宅や祖母の畑で、セリ、ウド、ヨモギ、ホワイアスパラ、ニンジンの葉、竹の子をとらせてもらう。

熱くなった油を見て、「先生もういいんじゃない？」「はしにあわが浮いたらいいんだよ。お母さんとこの前、天ぷらを作った時に、教えてもらったよ」「あわが出てるね」「お母さんはね、粉をちょっと入れて、浮いてきたら揚げていいよって言ってたよ」「わー、粉がかたまったね」「粉が本当に浮いてきたね」一人一つずつ衣をつけ揚げる。「浮かんできた。あわがいっぱい」「じっと見つめる。」「なんだかお花の色がむらさきになったよ」「もう、食べられるのかな」「大きなあわになったよ」上にあがってきた」

れんげの天ぷらを食べる。「熱い！」「おいしい」「あまーい」「ぱりぱりしておいしい」
ドクダミの天ぷらを食べる。「なんか匂いしないね」「まずい」「苦ーい」「おいしいけど、ちょっと苦い」「わかんない」「体の中の毒を出してくれるからじゃない」「薬みたいだから、苦いんじゃない？」「ユキノシタを食べる。「おいしい」「あまい」「サクサクだ」
タンポポを食べる。「おいしーい」「本当だ。おいしい」「でも、なんかちょっと苦いよ」「食べてるとだんだん苦くなってくるよ」「苦くないよ」

みどころ

「食べられる草花がある！」ということは、今までの経験から見聞きしているので、「本当にそうかな？」と家で確かめる時には、幼児なりに「どこにあるのか」「どうやって食べるのか」などと具体的な情報を知ろうとしていたと思われます。また、「食べられる野草を探る」という目的で散歩しているので、今まで気付かなかったことや疑問に思わなかったことを友達と話題にし、考え合ったり情報を伝え合ったりしています。こうして自然に親しみ、調理したり味わったりすることで、食べる喜びを味わうことに結びついています。栽培物を食べることとは違う自然への意欲的なかわりや発見・感動体験をし、「自然への親しみ」が深まったと思われます。